

報告書〔3〕 分析結果及びフローシート

3 全燐

分析実施機関名	整理番号	*	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001-9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (G17'25) 4. なし
分析主担当者名	分析主担当者の経験年数	②	年	分析主担当者の実績(検体数)	③	検体

注1) 分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)
④	⑤	⑥

分析開始日	⑦	月	日
分析終了日	⑧	月	日

注1) 有効数字3桁で記入する。なお、2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。また、実施要領5(1)の希釈方法に従って調製した分析試料中の濃度を記入する。
なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。

< 紫外吸光度法 >

試料の適量 ③
↓
分解瓶 ④
50ml
↓
加熱 約120℃、30分間
↓
放冷 ⑤
↓
上澄み液25mlを分取
↓
モリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液2ml
↓
放置 15分間
↓
吸光度測定 880nm ⑥⑦⑧

< 分析法等 >

分析法	① 1. ヲルチン二硫酸カリウム分解法 2. 硝酸-過塩素酸分解法 3. 硝酸-硫酸分解法 4. その他()
-----	--

< 分析条件 >

試料量	③ () ml
測定波長	④ () nm
セル(光路長)	⑤ () mm

< 硝酸-過塩素酸分解法 >

試料の適量 ③
↓
硝酸 弱酸性とする
加熱 15~20mlまで
↓
硝酸2~5ml
↓
加熱 約10mlまで
↓
硝酸2ml
↓
加熱 約10mlまで
↓
過塩素酸5ml
↓
加熱 過塩素酸の白煙が発生
↓
時計皿
↓
過塩素酸がビーカー内壁を還流
↓
放冷
↓
水約30ml
↓
p-ニトロフェノール溶液数滴
↓
水酸化ナトリウム溶液 わずかに黄色になるまで
↓
50mlとする
↓
25mlを分取
↓
モリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液2ml
↓
放置 15分間
↓
吸光度測定 880nm ⑥⑦⑧

< ヲルチン二硫酸カリウム分解法 >

試料の加熱濃縮	① 1. 行わない 2. 行う 2. の場合 濃縮倍率()
分解瓶の種類	② 1. 四ふっ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3. その他()
モリブデン青の溶媒抽出	③ 1. 行わない 2. 行う 2. の場合 溶媒の種類 1. DIBK 2. その他()

< 硝酸-過塩素酸分解法 >

硝酸の使用量	④ () ml
過塩素酸の使用量	⑤ () ml

< 硝酸-硫酸分解法 >

硝酸の使用量	⑥ () ml
硫酸の使用量	⑦ () ml

< 硝酸-硫酸分解法 >

試料の適量 ③
↓
硝酸 弱酸性とする
加熱 15~20mlまで
↓
硫酸(1+1)2ml
↓
硝酸2~5ml
↓
加熱 硫酸の白煙が発生
↓
時計皿
↓
硫酸の白煙を発生させる
↓
放冷
↓
水約30ml
↓
煮沸 約10分間
↓
p-ニトロフェノール溶液数滴
↓
水酸化ナトリウム溶液 わずかに黄色になるまで
↓
50mlとする
↓
25mlを分取
↓
モリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液2ml
↓
放置 15分間
↓
吸光度測定 880nm ⑥⑦⑧

< 検量線の作成 >

検量線	作成点数①() 範囲②()~③() 単位 ④ 1. µg(量) 2. mg/l(濃度) 最高濃度の指示値⑤()
試料	吸光度⑥()
空試験	吸光度⑦()

< 分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点 >

前処理について	-----
測定方法(モリブデン青吸光度法)について	-----
分析全般について	-----